

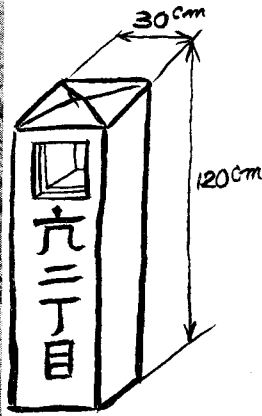
天文ハイキング [Ⅲ]

大雄山最乗寺二十八宿の碑

朝方止んだ夜来の雨の名残りの霧が濃く淡く老杉の間をたゆとう。しっとりぬれた爪先上りの参道を進むと、次々と墨絵のような景観が開ける。ここ大雄山最乗寺は永平寺・総持寺に次ぐ巨刹で、起伏の多い広い境内と、全山を埋める杉の巨木で知られる。

同好会S氏の紹介でここに二十八宿の碑があることを知り、会員20名で調査したのは7年前であった。今回この原稿を書くに当り息子と再び訪れてみた。

碑は元治元年に建てられた物と、明治42年吉原の妓楼主による物と2種類あり、或いは並んで、或いは道をはさんで向い合って建てられている。残念ながら道路の改修等で一部失われており、現存するのは元治系8基明治系20基である。形状は写真の如く石柱で宿名と丁目が刻印されているが、元治系「軫二十八丁」のみは燈籠型の常夜燈になっており、側面に由来文が刻まれている。



写真は明治系の二十八丁目  
図は二十八丁目以外の碑の形

それによると、「当山の麓から山門迄およそ1680歩。わが国では60歩を一丁とするから約28丁となる。そこで小田原誠信社中の者達は浄財を寄捨して星図28宿の燈籠を作り、寺の祭の日には火を点し、日が既に西の海に沈み、月いまだ東の峰に顔を出さぬ、暗い、くねくねと険しい道を照らして、訪れる人々の便宜に供す……」とある。

道は現在は広い自動車道となっているが、碑の一部は昔の参道とおぼしき細い道にあり、往時がしのばれる。

7年前同好会で調査した時は、草むらの中、或いは側溝の上に倒れている物もあり滅失が心配されたが、今再び訪れてみると無くなった物はなく、一部は立てなおされて保存はまずまずと思われる。

最乗寺は小田原から出る大雄山鉄道の終点下車、バスで入口迄行く、碑を見るには本堂附近の二十八丁目から順次たどり、歩いて大雄山鉄道終点に到るのがわかりよい。  
(原田光次郎)

◇ 3月の天文暦 ◇

日	時	記	事
1	24	水星	留
5	11	天王星	留
6	1	啓蟄	(太陽黄経 345°)
6	20	朔	
8	21	月	最近
13	11	上弦	
16	10	水星	西方最大離角
21	0	望	
21	2	春分	(太陽黄経 0°)
24	18	月	最遠
26	15	木星	衝
27	14	土星	衝
27	16	海王星	留
29	5	下弦	

◇ 3月の日月惑星運行図 ◇

